

平成30年8月22日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 自由民主党志清会

代表者氏名 堀 江 武 史



会派の（調査研究）報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	平成30年7月25日(水)～ 平成30年7月26日(木) 1泊2日
2 調査研究または 研修の場所	7月25日(水) 東京から愛知県へ (移動)
	・愛知県 半田市役所 (半田市)
	7月26日(木) ・愛知県 わーくはぴねす農場 (豊明市)
	豊明市役所 (豊明市)
3 調査研究事項 または研修名	7月25日(水) ①マイレポはんだについて 概要説明
	7月26日(木) ②わーくはぴねす農場 現地視察
	③官民連携での障がい者雇用のサポートについ て 概要説明
4 参加者氏名 (8 名)	堀江武史 天野正昭 中嶋博幸 村野栄一 窪島成一
	ひはら省吾 中村一広 子籠敏人 (二日目から)
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり



視察報告

【概 要】

(1) 平成 30 年 7 月 25 日(水) 13:30—15:30

(視察先) 愛知県 半田市役所

(目的) スマートフォンを利用して、道路の陥没や施設の破損など、身近な問題を手軽に解決する、先進的な取り組みを参考にするため。



(内容)

従来の問題点

〈市民〉

- どこに連絡すればよいかわからない。
- 役所が開いている時間しか連絡できない。
- 電話では、場所と状況が伝えにくい。
- 課題・問題に対して、どのように対応しているかわからない。

〈行政〉

- 道路パトロールや点検を実施しているが、見回りきれない。
- 電話では、場所と状況が把握しづらい。
- 現地確認に時間がかかる。

期待される効果

- スマートフォン・パソコンにより、いつでも簡便に課題・問題を伝えることができる。
- 写真・GPSデータにて、状況・場所を正確に伝えることができる。
- みんなが対応状況を確認でき、行政対応の透明性を高めることができる。

行政の見える化の推進

- 自分のレポートにより、街が改善されることで、地域への貢献が実感できる。
- 多くの人から情報提供を受けることで、行政の目が届かないところの課題・問題も把握できる。
- 行政側も現地確認の初動の効率化が図れる。

(考察)

既存のアプリ (FixMyStreetJapan) を使用することにより、初期設備、企画に対する費用も少なく抑えられ、費用対効果は高いと思われる。懸念される問題は、不適切な投稿や、いたずら、行政の仕事量の増加、議員からの反発等が考えられたが、実証実験期間を設けることにより、スムーズな運用が開始できたとの事。取り組みの経緯として、検討から運用開始まで、約1年半という、異例なスピードのモデルケースだが、市長と職員が一丸となり取り組んだ結果であると感じる。本市としても町内会・自治会の加入者が減少しているなか、市民からの要望収集方法の一助になるのではないかと考える。今後効果、問題点、課題を熟慮して検討して頂きたい。

(2) 平成 30 年 7 月 26 日(木) 9:30-12:00

(視察先) とよあけファーム わーくはびねす農場、 愛知県 豊明市役所

(目的) 官民連携での障がい者雇用のサポートについて、先進的な農園就労の取り組みを確認した。





(内容) 豊明市は、障がい者雇用を目的とした民間運営（エスプールプラス社）の農園を誘致。障がい者雇用は、法的に義務付けられているが、適した職場を提供できない企業側と、障がい者を「農業就労」でマッチングする事業。

(取り組み) エスプールプラス社に対し、農園誘致の紹介、就労説明会の開催、社会福祉法人に対する農園事業の説明・協力要請を行う。同市長が発足したプロジェクトチームのもと、社会福祉法人、建設・都市計画、地域活性の3つの部門が協働したことにより、スピード感をもった取り組みが実現した。

(問題点・考察) 法定雇用率を達成したい企業と障がい者の就労ニーズをマッチングさせる事業として、非常に画期的な取り組みである。同時に JA 関係、市内社会福祉法人等、農業・障がい者就労施設には、丁寧な説明や、ケアが重要である。その点は、説明会や協力要請をした際に、市と協定書の締結をするなどして、双方が安心して協力しあえる、十分な配慮があった。それが、スムーズでスピーディな運用に繋がったと考察する。現在、ほぼ定員 60 名の障がい者が、農園を利用する企業に所属し就労しており、雇用先である企業は、市内外からも集まり、また、親御さんからも安心して働かせられると、喜びの声も大

きいと聞く。その安心の環境の為、農園には障がい者3人にひとりの割合で農園の利用企業が管理者を雇用している。それは地元シルバー雇用の促進にもつながっている。この農福連携事業は、非常に先進、画期的と考えるが、上記したように、既存の市内農業関係や、社会福祉法人等には十分な説明が大切であり、しかしスピード感をもった行動が必要であると思われる。なにより、農園で働いている障がい者の方々の、明るく笑顔で作業している姿が印象に残った、と言った感想である。

その他 留意事項

- (1) 写真を添付してください。
- (2) 視察先の資料などを添付してください。
- (3) 自家用車を使用した場合、自家用車使用報告書を添付してください。
- (4) 視察終了後1ヶ月以内に報告書を提出してください